

事業コード	H16-建-継-15			区 分	国庫補助・ 県単独
事業名	生活圏30分形成道路整備事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	道路改築事業(バイパス)			課室班名	道路建設課 (tel) 2486
路線名等	(主)横手大森大内線			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	大雄村 田根森			担当者名	主幹(兼)班長 小田 修
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	目標コード	2	施策目標名	県道改良率	

1. 事業の概要

事業期間	H8～H17(10年)	総事業費	25億円	国庫補助率	-	
事業規模	延長L=2,700m 幅員W=15.5m(3.5-1.25-6.0-1.25-3.5)					
事業の立案に至る背景	当該路線は、大雄村、大森町から横手市街地への通勤、通学、通院等の日常生活を支援する重要な路線である。また、周辺地域では平鹿総合病院移転計画もあり、重要性は増加している。当該区間は、バス路線及び通学路でもあり、地域住民にとって欠かせない道路であるにもかかわらず、幅員狭小、歩道もなく、人身事故が毎年発生しているため、円滑な交通の確保と地域住民の安全性確保を早急に図るべく、当該区間を整備するものである。					
事業目的	通学路における歩道未整備箇所の解消(安全な生活環境の確保) 緊急輸送道路ネットワーク(道路の防災対策・危機管理の充実) 冬期末改良区間の解消(道路の防災対策・危機管理の充実)		歩道なし 第2次緊急輸送道路 路肩幅員0.5m			
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)					
		全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降
経費内訳	事業費	2,466,202	2,165,202	220,000	81,000	0
	工事費	1,113,835	922,835	113,000	78,000	0
	用補費	1,132,929	1,038,429	94,500	0	0
	その他	219,438	203,938	12,500	3,000	0
財源内訳	国庫補助	0	0	0	0	0
	県債	2,218,000	1,948,000	198,000	72,000	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	248,202	217,202	22,000	9,000	0
事業内容	改良工 舗装工 用地補償		改良工 用地補償	改良工 舗装工		
事業推進上の課題	特になし					
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業					
関連プロジェクト等	横手平鹿合併協議会(法定合併協議会H16.1.13設置)					
事業を取り巻く情勢の変化	横手平鹿合併協議会が発足し、「合併重点支援地域」にも指定されている。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	路線冬期幅員確保率		データ等の出典	道路現況調書 平成16年7月	
	指標の種類	成果指標 (業績指標)				
	指標式	路線確保済延長/実延長				
	目標値a	16.3%				
	実績値b	10.3%				
達成率 b/a	63.2%		把握の時期			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	当該区間は通学路指定道路及びバス路線となっているが、幅員狭小のため事故率が高く、通学児童の安全確保のため早急な改良が必要である。 第二次緊急輸送道路であり、他に競合する路線は存在しない。	12 点
緊 急 性	本路線は、道路交通量調査の動向では増加傾向にあり、通学路でもあることから緊急に整備する必要がある。	10 点
有 効 性	緊急輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。 「生活圏30分形成道路」のボトルネック区間となっており、整備後の有効性は高い。	30 点
効 率 性	事業の費用対効果は4.12であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 29.5億円 ・総便益の現在価値 121.7億円	19 点
熟 度	用地買収も平成16年度で終了予定であり、平成17年度事業完成に向けて支障となるものはない。	20 点
判 定	ランク（ ○ ） 「有効性」「効率性」「熟度」が高い点数となっており、また防災計画上の重要路線であることから、引き続き事業を実施すべきである。	91 点
総合評価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (21)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所)

事業コード (H16-建-継-15) 箇所名 (大雄村 田根森)

適用事業名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	8	6	5m - - なし	
		2箇所	6			
		1箇所	4			
		0箇所以上	0			
		計	15			
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	7	6	28.7km/h 106件/億台 なし 死亡事故	
		4件該当	6			
		3件該当	5			
		2件該当	4			
		1件該当	2			
		該当項目なし	0			
		計	15			
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	4	4		
		なし	0			
		位置づけあり	3			
		位置づけなし	0			
	市町村合併支援道路	増加している	3	3		
		増加していない	0			
	特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	5	0		
		なし	0			
		計	15			
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7		
		該当しない	0			
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	平鹿総合病院	
		該当しない	0			
	地域防災計画重要な道路	該当する	7	7	第2次緊急輸送道路	
		該当しない	0			
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
低下傾向		6				
必要性が低い		3				
計	30	30				
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	B/C=4.12	
		0.5以上~1.0未満	3			
		0.5未満	0			
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5		
		500台/日以上~1,000台日/未満	4			
		300台/日以上~500台日/未満	3			
		300台/日未満	0			
	コスト縮減	あり	5	5		
		なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	4	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅		
	既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3				
計	20	19				
塾度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	10		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
		未着手	0			
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
未着手		0				
計	20	20				
合計			100	91		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	91	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		